# 西鉄とまちづくり
# 鉄道会社によるまちづくりと、各地の駅ビルの影響

経済学部
経済学科
教授
芳賀 博文

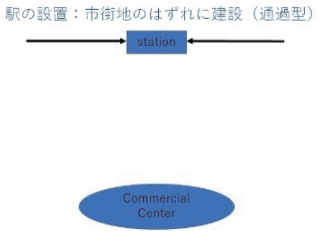
## 研究シーズの紹介

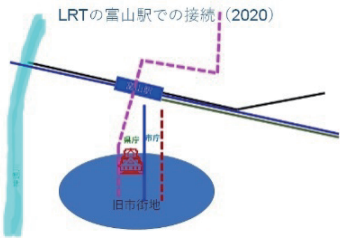
我が国の鉄道会社（主にJRと大手私鉄）は、1990年代から駅ビルの建設と駅周辺の整備を含む再開発を大規模に進めてきている。20世紀にはモータリゼーションの普及と人口増加で、郊外の住宅地開発が著しく行われ市街地の希薄化が進行した。この反省から、21世紀は持続可能な社会を築くために市街地のスケールを小さく保ち、公共交通を主要な移動手段とした都市の「コンパクト化」が推進されている。

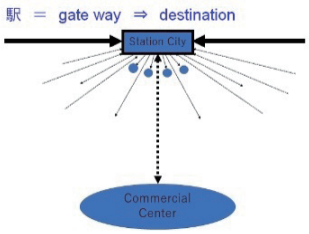
本研究では、全国でも成功事例と言われている富山市のLRTによる鉄軌道を基軸としたコンパクな街づくりが、富山駅と駅周辺にどのような影響を与えているかを現地での土地利用調査から検証した。

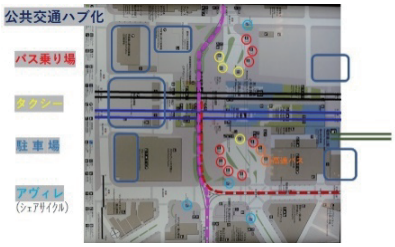
**Point 駅ビル再開発**

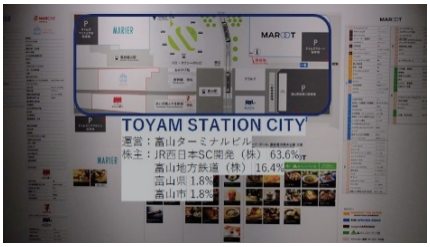
- 関西地方を中心に、鉄道会社のビジネスモデルとして早い時期から確立。
- 1990年代後半からは民営化後のJR各社も大規模な複合型施設を建設。






## 期待される活用シーン

- 駅に商業施設が集中することで既存の中心商業地の衰退が起こるのでは?

→ 駅の発展に刺激を受けた既存中心商業地でも再開発等による活性化の可能性があります。

- 鉄道会社による駅ビルビジネスは世界的な傾向があるの?

→ 海外の駅では単に旅客を対象とした店舗が殆どです。治安や列車頻度等が背景にあると思われます。

**その他の研究テーマ**

・天神ビッグバンと博多コネクティッドに関する研究